

三学年混成演習による人材育成 ～産官学連携に至るまで～

- (1) 大学の紹介
- (2) 取組の概要
- (3) 取組の経緯
- (4) 取組の課題

岩手県立大学ソフトウェア情報学部

松田 浩一(キャリアデザインTF)

matsuda@iwate-pu.ac.jp



インターンシップ等実務者研修会 [東北] 2015.08.04 松田浩一, 岩手県立大学ソフトウェア情報学部

大学(学部)の紹介

大学(学部)紹介

■ 学部構成

- 看護学部(90名)
- 社会福祉学部(90名)
- ソフトウェア情報学部(160名)
- 総合政策学部(100名)



ソフトウェア情報学部
教育研究ユニット構成(×20)

■ ソフトウェア情報学部

- ソフトウェアを中心とした情報工学系学部
- 企画・提案力+ソフトウェア開発力 → チームで
- 一年次からの講座配属
 - 一年次から各講座で受講する授業あり

演習科目群(全て必修)

■ 創る力と作る力

| | | 1年次 | | 2年次 | | 3年次 | | |
|-------------|---------------------------------------|------------------------|-----------|---------------------------|-----------------------------|---|---------|------|
| キャリア学習科目群 | 理論系科目 正解のない ケーススタディ (2013~) | 基礎教養入門 ・問題分析方法論 | | キャリアデザイン1 ・ICTを使った問題解決 | | キャリアデザイン2 ・人生の問題解決 | | 卒業研究 |
| | 実践系科目 実践的課題 プロトタイプ作成 (2007~) | 学の世界入門 | | プロジェクト演習1 | | プロジェクト演習2 | | |
| | | スタディスキルズ ・学びについて考える | | | | | | |
| ソフトウェア演習科目群 | 実践系科目 基礎技術 (1998~) | ソフトウェア演習A | ソフトウェア演習B | ソフトウェア演習C | ソフトウェア演習D | システム演習1 | システム演習2 | |
| | | ・アルゴリズム入門 | ・C言語 | ・オブジェクト指向設計 ・Java言語 | ・WEBアプリケーション ・JavaScript | ・専門分野の知識・スキルを身に付ける ・講座によっては早期に卒研スタート | | |

※キャリア学習科目群:「学び続ける姿勢」「考え抜く理論」を実践的に学ぶ

グループワーク

講座開講科目

外部評価

- **文部科学省 特色GPA^{A)}(H16)**
 - 高度専門教育と人間教育の一体化

- **文部科学省 大学教育ガイドブック^{B)}(H26)**
 - ソフトウェア情報学部;岩手県立大学方式講座制

インターンシップ等実務者研修会 [東北] 2015.08.04 松田浩一, 岩手県立大学ソフトウェア情報学部

取組の概要

プロジェクト演習概要

■ 目的

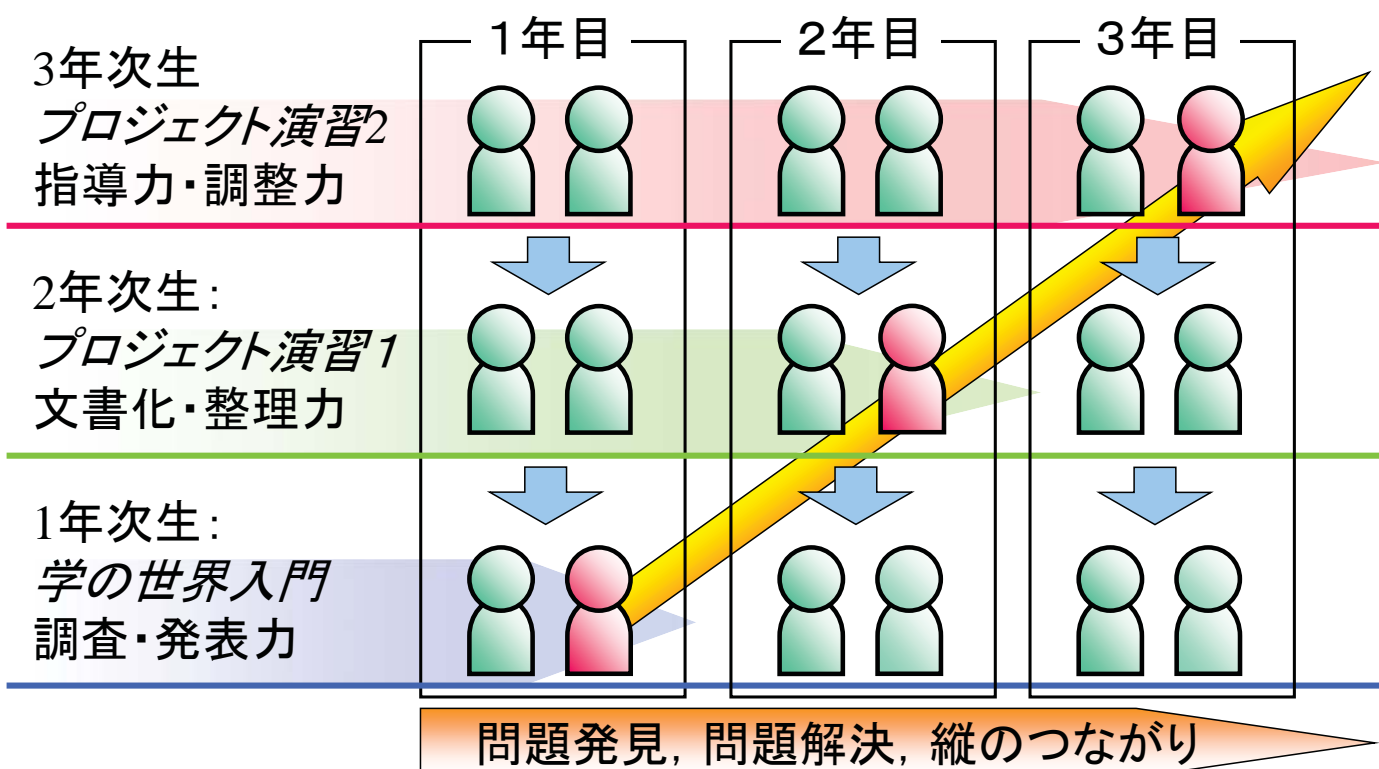
- 情報技術をコアコンピタンスとした創造的活動
- チームによる問題発見・解決過程の経験
- 多様な価値観の理解

■ 手段(講座ユニットを活用)

- 学年混成チーム(1学年2名, 計5~6名程度)
- 学生主体で授業進行, 教師は監視・アドバイス役
- 地域からの提供課題にICTを用いた解決法を議論
- 学んだ問題分析の方法論を活用

インターンシップ等実務者研修会 [東北] 2015.08.04 松田浩一, 岩手県立大学ソフトウェア情報学部

履修イメージ



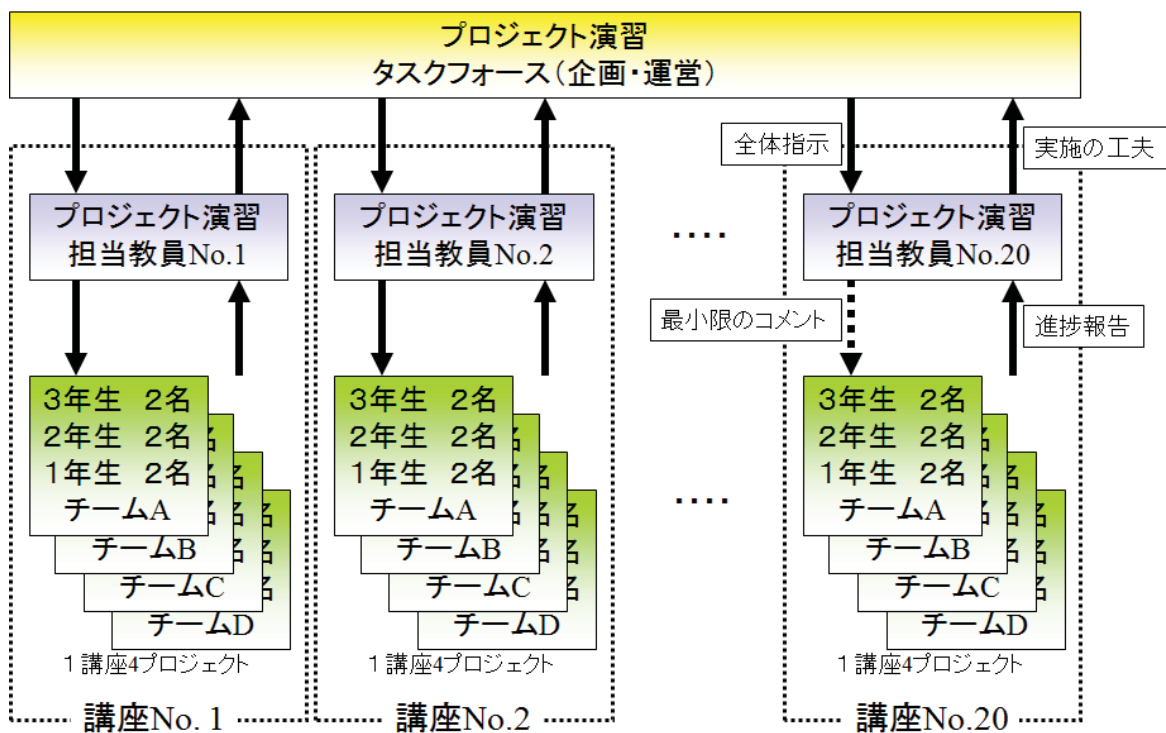
インターンシップ等実務者研修会 [東北] 2015.08.04 松田浩一, 岩手県立大学ソフトウェア情報学部

成果発表会の様子



インターンシップ等実務者研修会 [東北] 2015.08.04 松田浩一, 岩手県立大学ソフトウェア情報学部

演習実施体制(全て教員)

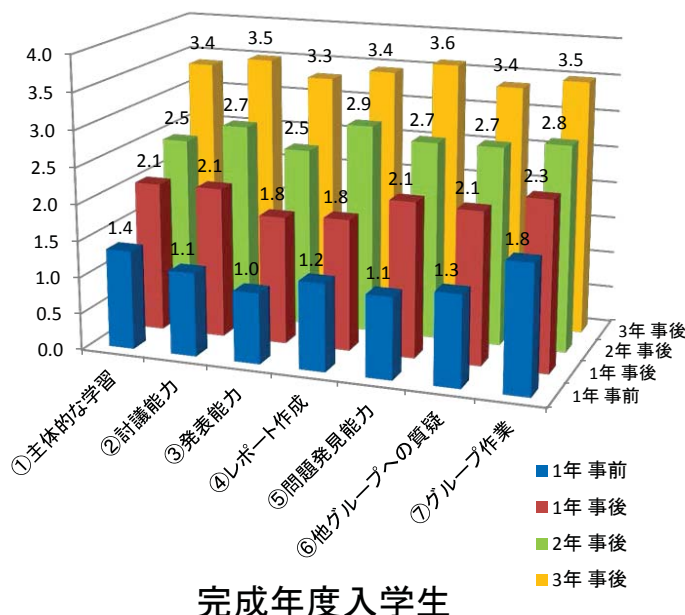


各学年160名 × 3学年 = 480名の学生が20講座に分かれて受講

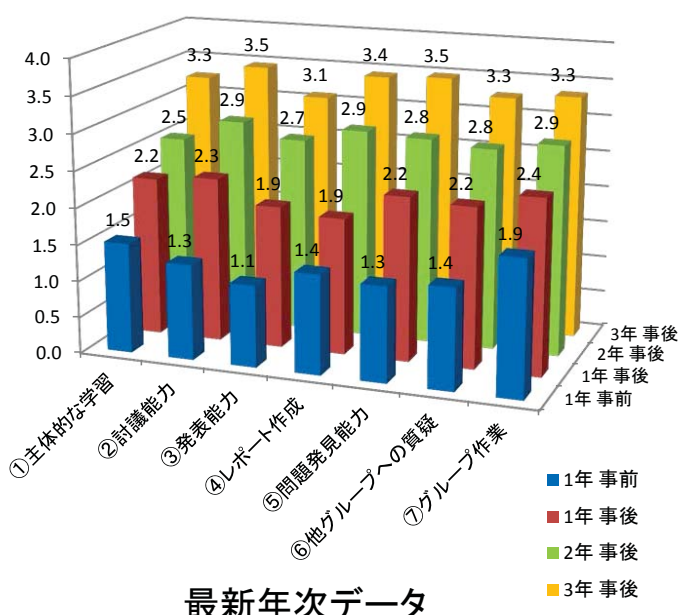
学生の自己評価(～2013)

■ 自己評価集計(項目別)

2009年入学生の推移



2011年入学生の推移



外部評価

■ 【社会人基礎力を育成する授業30選】

- 岩手県立大学ソフトウェア情報学部「プロジェクト演習」, 2014.3.9(経済産業省)

社会人基礎力を育成する授業30選(経済産業省), 2014.03
<http://www.meti.go.jp/policy/kisoryoku/kisoryoku30sen.html>

■ 【大学の初年次教育調査オールA評価】

- 岩手県立大学ソフトウェア情報学部(オールA;全国1092学部中3学部), 2010.2.15(日本経済新聞)

大学の初年次教育調査(河合塾), 2010.9
http://www.kawaijuku.jp/research/pdf/kawai_1009.pdf

取組の経緯

演習設置の背景

- **学生の変化(2005年頃)**
 - 技術指向の学生が多数→エンドユーザ層の増加
 - 仲間意識の減衰(個人の欲求の重視)
- **社会環境の変化**
 - 開学(1998)当時:技術者不足;開発力の重視
 - 学士力, 社会人基礎力
 - コンピュータの急速な家庭への普及
- **訓練の機会**
 - 問題解決能力の訓練は卒業研究に集約(各教員)

どうやって取り組みを開始したか

■ 現状認識 (2005)

- グループを作る枠組みが必要なのかも
- どうやら自分のところだけではない

■ 試行 (2006)

- 縦割りチームの効果の確認→経験すればできる
- 担当講座の1年生～大学院生に実施

■ チーム編成 (2006, 2011)

- 必要な知見をもつ人(かつ面白がってくれる人)の発掘, コンセプトの共有

どうやってカリキュラムに入れたか

■ カリキュラム改訂(2007)が予定されていた

- 自分がカリキュラム担当だった

■ 学部長への交渉(人的コストが多大なため)

- カリキュラム改訂の目玉に追加
- 既存インフラを活かす教育プログラム

■ 学部内の調整

- 教授会への報告, 教員への周知
- 既存科目の取り込みのため折衷案の作成
- 授業ガイドラインの作成

取組の課題

課題

- 「教育・人材育成」という観点の共有
 - 面白いと思ってもらえる人(教員, 外部)の発掘
- 仕掛けの時節
 - 時期と周辺環境が合わないと何も起こせない
 - 巻き込みと引継ぎ(想いの継承)
- 負荷のバランス
 - 新規事業は, できる人に仕事が集中